参考資料の考え方(案)

平成16年6月8日

1. 参考資料の趣旨

最終報告書本文の理解を補助するものと位置付ける。

2. 各資料項目の考え方

参考資料1：用語解説

最終報告書の本文中で使用されている専門用語及び一般に常用されていない語について解説する。中間報告書の付録とされた用語解説に、最終報告書の内容を踏まえて用語の加除を行う。

参考資料2：受精から出生に至る過程と報告書で取り扱う「胚」の定義

受精から出生に至る過程の中での「胚」の位置付けを図示し、ヒト受精胚がどのような存在であるかの理解を助ける。また、最終報告書における定義上「胚」とされる範囲を図中に示し、最終報告書が、研究目的でのヒト受精胚の取扱いを原始線条の形成前までに制限する趣旨についての理解を助ける。

参考資料3：検討背景としての経緯

最終報告書に示された「報告書の目的」や「検討背景」に関する記述を補足するため、ヒト胚を取り扱う研究についての我が国における検討経緯を示すとともに、旧科学技術会議生命倫理委員会における検討結果や総合科学技術会議のこれまでの検討結果等と今回の最終報告書との関係を説明する。

参考資料4：議論の構図

これまでの検討では、ヒト受精胚の位置付け、ヒト受精胚の取扱い、人クローン胚の地位、人クローン胚の取扱い、といった論点に沿って議論されており、これらの論点において委員の中で意見の相違があった。一貫した論理で記述された最終報告書では、こうした意見の相違点に関する説明が割愛されているため、こうした各論点における意見の相違の構図を示し、最終報告書の論理がどのように位置付けられるのかを示す。

参考資料5：主要国のヒト胚を取り扱う研究の状況及び関係する制度

主要国における研究状況や制度は、議論において度々言及され、議論に影響を与えた可能性がある。また、最終報告書を他国の状況や方針との比較において理解することも重要であると考えられる。このため、これらを参考資料とし、経緯を編年的にまとめ、現状については概略を記す。

参考資料6：検討経緯等

最終報告書の検討経緯も重要な情報であるため、これまでのヒト胚の取扱いに関する審議のための生命倫理専門調査会の開催日、審議の際の招聘者名及び検討に参画した議員及び専門委員名を記載する。また、最終報告書においても検討の方法として特に言及されている両論併記の中間報告書の取りまとめ、それに関するパブリックコメント、この期間中のシンポジウムについては、これを補足すべく関係情報を記載する。